

# 成果報告書

## I. 研究概要

氏名	夏 芸 (XIA YI)
所属	中国・湖南大学外国語学院 (準教授)
招聘回 (招聘期間)	第六回 (2011年10月1日～2012年3月31日)
招聘研究テーマ	<b>日中両国語の「言語行動表現」の比較</b> —同一場面における言語行動の表現方式のずれの分析を中心に—
研究目的	本文では、語用論的な視点から、日中の母語場面と接触場面による同一話題の最初の言語選択 (語彙、文体、ストラテジーなど) の相違、つまり、発話における文脈の選択に焦点を当て、同一場面における日中言語行動の表現方式のずれの原因を明らかにする。それから、日中接触場面との比較も行い、円滑な日中コミュニケーションを行える注意点と対策の究明、中国人を対象とする日本語教育への提言もできれば幸いである。 さらに、日中両国語の言行動表現の相違に関する研究に留まらず、国籍と言語に影響されない人間的な心理行動 (感情、人間関係など) を念頭において、日中間の言語行動表現の共通点に注目し、日本と中国の国境を超える究極なコミュニケーション・スキルを探求できることを期待する。

### 研究概要：

本文での「言語行動表現」は我々の内在情感と思想が言語によって翻訳され、表出するものと言う意味であり、ここではコミュニケーションで使う話しことばを中心とする。同一場面における日中言語行動の表現方式の相違と共通点の分析を通じて、日中両国語の「言語行動表現」の比較を行った。

研究方法として、コミュニケーションにおける「関連性」の原則及びアコモデーション理論を原因分析に取り入れている。それから、アンケート調査などの通じて、研究課題を検証し、実証研究手法を行っている。

アンケートの実施時間は2011年11月～2012年1月、実施場所は日本(東京)と中国湖南省になる。

日本にいる日本人(100名)、中国にいる中国人(100名)、日本にいる人中国人(25名)を調査対象として、4つの会話の場面を設定したアンケート用紙を用意し、その場で記入し回収する形で調査を行った。

結論として、下記のことが言える。

第一に、日本人と中国人における発話の文脈の選択は異なり、日中言語行動の表現方式に差異があることが明らかである。その主な原因は社会慣習、生活環境、文化の相違にも関連するか、日本語では相手のフェイスを尊重する傾向が強く、中国語では自分自身のフェイスを維持する傾向が強いという言語の選択に大きい相違があると言える。

第二に、同一場面について、日中言行動の表現方式は必ず相違していると言い切れないことが明確になった。これはすべての日本人同士と中国人同士の会話に共通点があるということではなく、あくまでも、より親密な親友、恋人、夫婦などの関係の場合に起こりえる現象である。この場合は、言語の選択よりも関係の深さと相手への配慮・感情など心理的なものに起因するものであり、言語、国境を超えた両国人の共通点に結び付くことが考えられる。

最後に、日本人同士の会話と日本人・中国人の会話は必ず相違点があることが明白である。これは社会文化、生活環境と習慣などの違いも関係あるか、日中接触場面において、日本人話者は中国人話者に遠慮し、発話の文脈を選択する際に、気遣っていることが指摘できる。そして、日本語ができる中国人話者はできるだけ、日本語と日本文化の慣習を意識しながら、発話の文脈の選択を行っていることも関連している。日中接触場面において、「日本的」な中国人に対して、日本人同士と同じような言語行動表現を行えたら、より円滑的なコミュニケーションを行えると考える。何よりも共通する人間性を重視し、一個人として接することが大事だ。

展望：

- 1、今後の中国における日本語教育現場（日本語会話、ビジネス日本語授業など）に応用できると考える。そして、日中文化経済交流及びビジネス現場への活用を期待できる。
- 2、研究論文として、6月にお茶の水女子大学で行われる予定の第44回「言語文化学会研究会研究発表会」において発表し、『言語文化と日本語教育』44号に投稿する。
- 3、本研究と関連している論文を湖南大学で8月に行われる予定の第4回「中日対照言語学研究会」において発表し、論文集に投稿する。
- 4、可能であれば、会話場面の調査結果を使用して、日中ビジネス会話に関する比較研究を今後行う予定である。これは、第7回中日韓文化教育研究フォーラム（9月に大連外国語大学で行う予定）に発表したいと考えている。